

安田の目

- 5 -



ボルテックス
安田 憲治

先月7日から9日にかけて

て、香川県高松市で「G7

香川・高松都市大臣会合」

が開かれた。当会合は、

「持続可能な都市の発展」

にかかる都市政策の重要性

について、G7各国と国際

的な共通理解を図る場とし

て、「温室効果

ガス排出のネット

・ゼロによる

レジリエントな

(回復力のある)都市」

「インクルーシブな(誰も

が参加できる)都市」「都

市圏でより深刻となってい

市のデジタル化」というテ

マに焦点が当てられた。

より詳細には、2021

年における建築と建設活動

によるCO₂排出が全世界

の約37%を占めている現状

を踏まえた効果的な施策

や、OECD加盟諸国の共

通課題である人口減少によ

る社会的孤立や分断への対

応、大都市圏よりも中小都

市圏でより深刻となってい

るデジタル格差(情報通信

技術へのアクセスや理解の

個人差)の是正など、議論

は多岐にわたった。

そして、世界が「気候変

動」「生物多様性の損失」

「汚染」という3つの地球

規模の危機に直面する現状

を受け、都市政策にかか

る「持続可能な

都市の成長を

実現するための政

策の実施や協力

の状況」を確認し、成果が

積み上がっていることが明

らかとなった。

当会合の議論を経て制定

された今後の取り組み指針

「香川・高松原則」への対

応が将来進めば、都市の持

争の弾みとなることも期待

されていた。

G7都市大臣会合は、昨

年9月にドイツのポツダム

で初開催された。第2回の

今回、「G7香川・高松都

市大臣会合」では、前回定

められた原則と提言にかか

る「持続可能な

都市の成長を

実現するための政

策の実施や協力

の状況」を確認し、成果が

積み上がっていることが明

らかとなった。

当会合の議論を経て制定

された今後の取り組み指針

「香川・高松原則」への対

応が将来進めば、都市の持

続可能性はさらに高まるこ

とだらう。

「G7香川・高松都市大臣会合」都市政策展望

◇ やすだ・けんじ 一橋大学大学院経済学研究科修士課程修了。大手総合アミューズメント企業で、データサイエンスの経営戦略への反映に取り組み。現在、株式会社ボルテックスにて、社内データコンサルティングに携わる。多摩大学社会的投資研究所研究員。

各課題を解決していくためには、政府の連携、国と地方の政府間連携、産官学連携、市民社会の連携、国際協力など、あらゆる協力が必要だと議論された。

また、会議などで都市の魅力向上や経済活性化を図る「MICE」政策、つま

りMeeting(企業系会議・研修・セミナー)、Incentive Travel(企業の報酬・研修旅行)、Convention/Conference(大学・学会・国際会議)、Exhibition(展示会・見本市・イベント)の観点では、香川県でのMICE開催が18年の215件から20年の23件まで落ち込み、22年は111件へと回復する推移を辿ってきた中、今回「かがわ国際会議場」でのG7都市大臣会合が、将来の都市間競